

### 『子どもと向き合う』

これまで多くの教師を見てきました（自分のことは棚に上げます）。

「この教師に受け持たれた子ども達は幸せだな」「子ども達の様子、けっこういい感じだな」と思える学級や授業があれば、「大丈夫？」と心配してしまう学級や授業もままありました。

「教師としてその役割をちゃんと果たしているな」と私が思えるのは、教師が「受け持った子ども達一人ひとりとちゃんと向き合っている」場合です。

「子どもと向き合う」というフレーズはよく使われますが、具体的にはどういう状態を指すのでしょうか。私の考えは次の通りです。

- 1 「子どもをちゃんと見る」：教師は実に多くの時間、子ども達の前に立っています。必然的に、子どもと向かい合うことになり、教師の視界に子ども達が入ります。子どもを見ていることにはなりますが、これは誰でもできること。教育の専門家としての教師であるならば、少なくとも、子どもの「表情」や「発する言葉」を高い感度を持って見守り、一人ひとりの“体調や気持ちや考え”を的確に捉える（あるいは想像する）ことをしなければなりません。「調子良さそうだな」「元気がないな」「悩み事があるのかな」「何か言いたそうだな」等を、ほぼ瞬時に把握し、“どういう言葉がけをするか”“もう少し様子を見るか”等、即時に対応を判断することが大事です。これは、子どもをちゃんと見ていなければできません。
- 2 「一線を画す」：「駄目なものは駄目」をちゃんと言える。「まあ、このくらいはいいか・・・」の積み重ねは、秩序の崩壊につながります。「ちょっと待ってください。今のは、どういうことですか？」と、望ましくない言動に遭遇した場合、機を逃さずに、子ども達に切り込む。決して、頭ごなしに叱責するのではなく、理由を聞き、その言動の影響に気づかせ、自らの口から、心からの反省の言葉を引き出す。この積み重ねにより、“何が良くて何が駄目なのか”社会と調和して生きていくための「価値」を形成していくこととなります。「おや？」「何か変？」を見逃さないことが大事。ましてや、そこから逃げてはいけません。
- 3 「傾聴・受容・共感」：子どもに対する先入観を持たずに、まずはじっくり子どもの話を聴く。子どもですから、皆が言いたいことを的確に表現できるわけではないので、

時には、教師の方から言葉を付け足し、つないだり補ったりして、子どもの言いたいことを整理してあげる。「先生、おれ、それが言いたかったんだよ」「私の言いたいことがつながりました。すっきりしました！」こういう会話ができるだけでも、子どもからの信頼度は上がります。

4 「より良い授業を追究する」：「良い授業とは何か？」一例ですが、授業の冒頭で「なぜ？」を生み出し、「何とか、解決したい」「だって。でもさ」と展開され、誰もが「そうだったのか！」と納得し知的快感を味わう。こんな授業が毎日展開されたら、「学校に行くのもまんざらではないな」と多くの子どもが思うのでは。“授業”こそ、「子どもと向き合う」場の“中核”です。“教師の総合力”が発揮される場であり、試される場でもあります。授業づくりに、「これでいい」はありません。子どもの表情や反応を思い浮かべ、「こんな工夫をしてみよう」「ここは、上手いかなかった」「次は、こうしてみよう」という営みを日々続けることが、教師には求められると思います。

とりあえず上述の4点は、「子どもと向き合う」に当たり大事にしたいことであり、教師であるならば身に付けなければならない資質だと考えます。

教育という営みは、相互の良好な人間関係（ひいては信頼関係）があって成立するものです。この良好な人間関係を築くためにも、上述の4点を意識したかわりがとても大事です。そして、これを築くには、タイミングがあると思っています。

その一つが、4月の新学期に、子ども達と出会ってからの3日間です。とりわけ、出会った初日での印象は重要です。そこで、子ども達が「何か、いいかも」と感じたらしめたもので、2日目「やっぱり、いいかも」、3日目「この先生、いい。好きかも」となると、その後の学級経営は、ほぼ順調に進むと思っています。

わずか3日の間ではありますが、子ども達は、目の前の教師をよく見えています。厳しい表現かもしれませんが、ある意味、査定しているのです。

出だしの3日間が、上述の展開と逆の場合は、その後の学級経営は、辛く厳しい状況が予想されます。「ボタンの掛け違い」を、途中から改善することは、相当な労力と時間を要することになります。

教師の仕事は、「人とかかわること」です。「人とかかわる」ということは、適切な（できれば良質な）コミュニケーションが求められます。そこには、言葉のやりとりと共に、ある程度の表現力も必要になります。“明るく、朗らか。誠実で、頼りがいがある”。こんな印象を持たれることは、教師としてとても有益なことだと思います。

“教育は、一瞬の連続”でもあります。その重みを受け止め、心して、子どもと向き合って欲しいと思います。